

# わだいの特選

カメラルポ

## 桃 保育園ひな祭り の節句を祝う！

3月3日、町立保育園でひな祭りが行なわれました。牛乳パックや紙皿、パン粘土などを利用して、園児たちが作ったひな人形を飾り、その前で皆で写真を撮りました。

この日は桃の節句にふさわしい、暖かく穏やかな春の一日で子どもたちはひな祭りの歌を歌ったり、絵本を読んだりして、楽しい時間を過ごしました。



▲旭台保育園のひな祭り

## 昔 ふれあい中央公民館 の遊びに子どもも大人も夢中！

3月6日、中央公民館で「ふれあい中央公民館」が開催されました。当日は、こまやベーゴマ、竹馬、折り紙など、様々な昔の遊びが用意され、おじいちゃんやおばあちゃんが先生になって、遊び方などを教えてくれました。こま回しや、お手玉などでお手本に見せてくれる見事な技に、子どもたちは目をまるくしながら、一生懸命コツを教わっていました。また、お父さん、お母さんも、子どもに返ったように、子どもたちと一緒に昔の遊びを楽しんでいました。子どもも大人も一緒に昔ながらの遊びを楽しみ、世代を越えた楽しい交流が行なわれた一日でした。



## み 健康まつり みんなで健康チェック！



2月21日、保健センターで健康まつりが行われました。健康食試食コーナーでは、ひじきご飯や豚肉とブロッコリーの炒め物、いちごの白玉など、骨粗しょう症予防を意識した試食が並び、訪れた人びとは、おいしくて体にやさしい料理を味わいました。このほか、体力測定や体脂肪チェック、骨密度検診、歯科検診なども行われ、楽しみながら健康チェックをしていました。

## 力 毛呂山小学校開校70周年 を合わせて花壇を設置！



毛呂山小学校PTAでは開校70周年を記念して、校舎前に2か所の花壇を作りました。花壇の側面を飾るアートタイルは、平成21年度の卒業生一人ひとりが自由に描いた作品で、植えられた花とともに、記念事業に華を添えています。また、花壇にはタイムカプセルが設置され、思い出の品が20歳になるまで大切に保管されます。花壇は、PTA、児童などが汗を流して実施した資源回収などで得た費用で作られています。

若一王子神社の流鏑馬  
(長野県大町市)



騎射の様子

長野県大町市では、かつての千国街道に栄えた宿場町ならではの賑やかな流鏑馬が行われています。毛呂山町と同じ小さな子どもが騎

乗する流鏑馬ですが、独特の化粧を施し華やかな衣装を身に纏う可愛らしい子どもの姿に目が留まります。今回は真夏の大町市を舞台に行われる長野県指定文化財・若一王子神社の流鏑馬について紹介します。

北アルプス一番街・大町

長野県北西部に位置し、北アルプス一番街と呼ばれる大町市は人口3万1千人、面積は約564平方キロメートルを誇る広大な町です。市街地の標高は760メートルで、夏は避暑地を思わせる過ごしやすい気候です。一方、冬は厳しく、豪雪地帯でもあることからスキー客で賑わいます。西部一帯は北アルプスの稜線が連なり、自然に包まれ、空気の澄んだ美しい町です。

「春は名のみの風の寒さや・」で始まる「早春賦」は寒さ厳しい山岳都市大町の情景を詠んだ唱歌で、市民会館には「早春賦」の歌碑が建碑されています。日本海側の新潟県糸魚川から松本を結ぶ塩の道・千国街道の宿場として発展した大町市には、国宝仁科神明宮に代表される貴重な文化財も多く、流鏑馬の舞台となる若一王子神社にも、神社

境内には珍しい三重塔（長野県宝）があります。

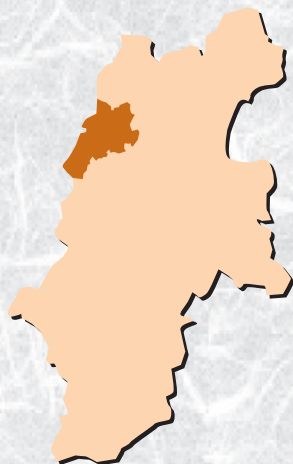
若一王子神社の子ども流鏑馬

「ハオー、ハオー」の口取りたちの勇ましい掛け声が町に響き渡



子ども流鏑馬の主役・ボボ

ります。大町市の本格的な夏の到来を告げる風物詩が7月下旬に行われる子ども流鏑馬です。担当10町から1騎ずつ乗り子が選ばれ、計10騎で流鏑馬が行われます。三日町地区から出発した隊列は、大黒町、九日町と10町を順に巡り、挨拶を交わしながら市街を巡行します。この時隊列を迎える町が最後に近い10町目の仁科町が加わると、舞台と呼ばれる山車まで含め、隊列の長さは500メートルにも達します。



長野県大町市

騎乗する子どもは小学校3、4年生が多く、純真無垢な神様の依りましとして一日中足を地に着けることなく過ごします。顔は白塗り、額には高貴な証しの位星を施します。頭上に鳥を戴く三蓋笠を被り、衣装も金糸の刺繍で文様を描いた陣羽織姿で騎乗します。この子どもたちを「ボボ」、「射手ボボ」といい、大人たちは愛着をこめて「ボボ様」と呼んでいます。10町の乗り子がそろった後、隊列は市内4か所で騎射を行いながら神社へと向かいます。

神社の馬場には的が3か所に建てられ、的を射ずに3回、的を射て3回、的を矢に当てる仕事で3回、計9回馬場を回ります。

「ボボ」を勤めることは、大役を果たすことであり、流鏑馬の後には明らかに成長した子どもの様子が窺えるといいます。大町市の例を見ても子ども流鏑馬が人生の通過儀礼の一面を持つことがわかります。